

瀋陽駐在員事務所**【越境 EC 商取引の政策変更】**

目下中国で盛んな「越境 EC(Electric Commerce)=輸入品のネット通販」ですが、4月8日から大きく政策が変更されました。

ポイントは以下の通りです。

1回の購入金額上限を、従来の1,000元から2,000元(約33,600円)に引上げ、1人当たり年間購入金額を20,000元(約336,000円)に限定。

従来は関税、増値税(日本の消費税に同じ)等が免除され、「行郵税」という低率の税のみ課されていましたが、これを廃止。

関税免除のみが残り、増値税等は一般貿易時の税率の70%を課税。

この措置により、単純計算では小売価格が約10%～30%上昇する計算になるのですが、現実には各業者が税額増加分(もしくはそれを上回る金額)を値引きすることで対応しているケースが多く、消費者の行動には全く影響は出ていません。むしろ各業者間の値引き合戦を誘発している感すらあります。

中国人観光客の「爆買い」も、中国内の税収不足や内需拡大のため、近い将来中国政府が課税強化や制限強化を図ると予想されていますので、「越境 EC」での輸入品購入は更に伸びるように思います。当事務所にも北海道内商品の調達を目的に接触してくる企業が出始めていますので、自社商品の海外展開ニーズを持つ取引先については、是非国際部あてにご相談ください。



(深センの越境 EC 商品展示施設)

南 敏律

ユジノサハリンスク駐在員事務所**【プーチン大統領への質問】**

ロシアでは、毎年4月、プーチン大統領の国民対話がテレビで生中継されます。この番組の約2週間前から、大統領への質問をメールや電話、ビデオ動画等で送り、当日は2～3時間かけて生中継でプーチン大統領本人に答えてもらいます。質問数は2001年当初の40万件から現在は330万件にまで増加しました。4月14日、プーチン大統領は3時間39分かけて78の質問に回答しました。生中継の際、事前質問以外に、ロシア全国の市町村から実況放送で質問を受けるような仕組みもあります。

サハリン州でも大きく話題になりました。生中継で、サハリンの女性が色丹島の水産加工場の給料未払いを訴えました。この件はプーチン氏の早期解決指示を受け、コジェミャコ知事やロシア最高検察庁が色丹入りすることになり、15日の日口外相会談(東京)と合わせ日本でも報じられました。

例年、質問が多いテーマは、住宅・公共サービス、労働・給料等です。その他には、経済制裁、ルーブルレート、石油の価格、欧米との外交的な関係を始め、最近のトルコとの関係、IS等も話題になりました。



マリア・ヤロヴェンコ

ウラジオストク駐在員事務所

ポストチヌイ宇宙基地の稼働開始について

4月27日、ロシア極東地域アムール州にあるポストチヌイ宇宙基地では初のロケット打ち上げが予定されており、事実上の稼働開始となります。同基地は2007年まで運用されていた同地域のスヴォボードヌイ宇宙基地の後身ですが、今後ロシアのロケット打ち上げの約45%を担っていきます。

ポストチヌイ宇宙基地の面積は約1035平方キロメートルで、従業員数はおよそ200名です。ポストチヌイ宇宙基地の設計・着工はそれぞれ2011年・2012年でしたが、有人宇宙船打ち上げも同基地運用計画に盛り込まれているため、経費総額約3000億ルーブル(約4500億円)にも及び当該工事は2023年まで続く予定です。

現在、ロシアのロケット打ち上げの大半はソ連時代から使用されているバイコヌール宇宙基地で実施されていますが、1991年のソ連崩壊後、同基地はカザフスタンが所有することになったため、ロシアは毎年約1億1500万ドルの使用料を支払わなければならないこともあり、宇宙分野における自立性の向上を目的に、ポストチヌイ宇宙基地を中心とした打ち上げインフラ整備計画が策定されました。

航空宇宙産業はロシアにとって有数の得意分野であるだけに、ポストチヌイ宇宙基地は今後大きな役割を果たしていくに違いありません。



イワン・モズゴヴォイ

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

北京での地下鉄通勤

住居の引っ越しに伴い、通勤方法が徒歩から地下鉄に変わりましたのでご紹介します。ここ北京では合計18本の地下鉄線が運行されており、その総延長は554キロ(札幌の11倍超)。現在、16本の新たな地下鉄路線が建設されており、2020年には、合計27本、総延長982キロの地下鉄線が完成する予定です。北京市交通委員会によると、先月25日の地下鉄利用者が延べ1,209万人となり、単日では史上最多を記録したことを発表しました。北京市の人口は2,000万人を超えていますので、朝の通勤ラッシュは想像に難くないと思います。

地下鉄での初めての出勤日、ある程度の通勤ラッシュは覚悟していましたが、正直、想像以上でした。まず、中々地下鉄に乗ることができません。朝の通勤の時間帯であれば、1分程で次が来るのですが、1回目で乗ることは不可能です。1回につき乗れるのはほんの数名で、私は3回目ようやく乗ることができました。

このような状況のため、朝の通勤ラッシュ時は駅構内への入場制限が行われます。中国紙・北京日報によると、入場制限が常態化している駅は計75駅で、全体の20%以上と発表しています。今年の計画では、色分け表示方式でラッシュ時の地下鉄の混雑予想を発表するようですが、果たしてその効果は如何に。



小笠原 宅麻